

事務事業名称	ひらかた子ども発達支援センター施設管理事業											
測定年度	2022(R4)年度			部	子ども未来部				課	ひらかた子ども発達支援センター		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4		R5		
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち										
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち										
	実行計画名	15-2.保育環境等の充実										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的的事业	区分	一般事務事業
事業期間	1974(S49)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	児童福祉法				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	障害や発達上支援の必要がある児			
	サブターゲット	上記児の保護者			
	ターゲットが抱える課題	児の障害や特性に応じて、保護者が独自に専門的な保育・療育を行うことが困難である。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	安全で円滑な保育・療育が行える環境を維持し、障害や発達上支援の必要がある児に対して、障害や発達に応じた専門的な保育・療育を提供できている状態。また、保護者や家族に対しては、家庭や身近な地域での療育環境を向上させるために必要な研修、情報提供等を行うことが出来ている状態。				
事業概要	<p>開設年:平成31年・敷地面積:2297.76㎡・建物面積:3475.61㎡・定員110名(児童発達支援)</p> <p>市立ひらかた子ども発達支援センターは、児童福祉法第七条第一項に基づく児童発達支援センターであり、通所児に対しては、児童単独もしくは親子通所により、日々の生活を基盤とした個別・集団的な保育・療育を実施している。通所支援を利用していないが支援を必要とする親子に対しては、遊びや集団の場を通じて経験を広げ、成長を促すことができるよう「地域子育て支援事業」を実施している。また、医師の指示の下、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を用いて、個々の状況に応じたリハビリテーションを実施している。</p> <p>その他、地域に対する支援機能として、障害児相談支援、保育所等訪問支援及び居宅訪問型児童発達支援を実施している。</p> <p>なお、通所児のバス送迎、建物の警備、大規模な清掃など専門性の高い業務については、外部委託により実施することで、事業運営の効率化を図っている。</p>				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		安全で円滑な保育・療育が行える環境を維持し、障害や発達上支援の必要がある児に対して、障害や発達に応じた専門的な保育・療育を提供できている。				適切な維持管理、運営により、市民が安心して施設を利用できる。				ひらかた子ども発達支援センター施設を適切に維持管理、および運営を行う。			
指標設定	指標説明	利用満足度 【算出式:保護者評価における満足度を図る質問に「はい」と回答した人数/回答数×100】				通所延べ利用者数				開所日数			
		単位 %				単位 人				単位 日			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	80	80	80	80	13,134	13,134	13,134	13,134	225	225	225	225
実績	81	83	85		10,365	9,441	10,671		215	219	225		
達成度	106%				81%				100%				

3. 人員体制

	(人)
	R4実績
正職員	41.32
再任用	3.00
任期付職員	14.69
会計年度任用職員	11.69
特別職非常勤	8.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

(千円)

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	421,242	452,529	400,770		
	会計年度任用職員	34,394	35,777	44,904		
	特別職非常勤	5,463	5,914	6,241		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	461,099	494,220	451,915		
	物件費計	52,409	63,832	64,226	69,144	92.9%
	歳出計	513,508	558,052	516,141		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	115	106	410	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	115	106	410	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	52,294	63,726	63,816	69,144	

5. 総括的分析

総括的分析	<p>就学前の障害児や発達上支援が必要な子どもたちが、日常生活での基本的な動作や知識・技術を学習し、集団生活に適応できるよう専門的な保育・療育を提供する通所支援(なのはな・すぎの木)を実施した。また、通所支援を利用していない障害児や発達上支援が必要な子どもたちが、遊びや集団の場を通じて経験を広げ、成長を促す地域支援(すくすく)を実施した。</p> <p>この他、障害や発達に関わる相談に幅広く応じ、成長段階に合わせた支援のコーディネートを行う相談支援や、医師の指示の下、理学療法・作業療法・言語聴覚療法を用いたリハビリテーション、心理士による保育所、幼稚園等の巡回相談・保育相談を実施した。</p> <p>さらに、療育を利用しやすい環境を整えるため、親子通所するきょうだい児の預かり事業を新たに実施した。</p>
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして役割を担いながら、安全で円滑な保育・療育が行える環境を維持し、障害や発達上支援の必要がある児に対して、障害や発達に応じた専門的な保育・療育を提供していく。

事務事業名称	通所交通費助成金事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	子ども未来部			課	ひらかた子ども発達支援センター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	不明		年度	～	年度まで
根拠法令等	通園児童療育実施要項(肢体不自由施設の通園児童に対する療育について。昭和38年6月11日厚生省発児第122号)				
関係補助金名称			サンセット	～	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	障害や発達上支援の必要がある肢体不自由児			
	サブターゲット	上記児の保護者			
	ターゲットが抱える課題	保護者が児の障害・発育の程度にあった通所手段(配車)を確保することが困難な場合がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	個々の事情に応じた援助の必要な肢体不自由児及び保護者の通所に対して、障害・発育の程度にあった通所手段(配車)の確保を行い、通所にかかる身体的な負担を軽減できている状態。				
事業概要	枚方市福祉移送サービス共同配車事業を活用した福祉タクシーと、民間タクシーで通所児等を自宅から市立ひらかた子ども発達支援センターまで送迎している。また、民有地を借り上げのうえ駐車場を整備することにより、利用者の車両の駐車スペースを確保している。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)				インプット (活動)							
	個々の事情に応じた援助の必要な肢体不自由児及び保護者の通所にかかる身体的な負担を軽減できている。	障害・発育の程度にあった通所手段(配車)の確保を行う。				通所する児童の障害の状況等を総合的に勘察し、自主的に通所が困難な児童については、介護タクシー又は、タクシーでの送迎支援を行う。							
指標設定	指標説明	利用者における「身体的な負担が軽減されている」と感じている割合 【算出式:保護者評価における負担軽減を問う質問に肯定の回答をした人数/回答数×100】				年間利用回数				送迎支援対象者数(延べ)			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	単位	%			単位	回			単位	人		
	目標(見込み)	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	実績	80	80	80	80	2,370	2,370	2,370	2,370	100	1,185	1,185	1,185
達成度	103%				97%				206%				

3. 人員体制

	(人)
	R4実績
正職員	0.70
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

(千円)

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	5,583	5,500	5,468		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	5,583	5,500	5,468		
	物件費計	6,733	4,779	7,731	7,654	101.0%
	歳出計	12,316	10,279	13,199		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
		歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	6,733	4,779	7,731	7,654	

5. 総括的分析

総括的分析	<p>本センターのなのはな(肢体不自由児)への通所については、通所する児童の障害の状況等を総合的に勘案し、自主的に通所が困難な児童については、介護タクシー又は、タクシーでの送迎の支援を行っている。タクシー送迎については、新型コロナウイルスの感染状況の推移と並行し、なのはなの在籍児童が令和3年度に比べ増加しており、これに伴って、タクシーの年間利用回数は前年比193%と大幅に増加している。</p>
-------	--

6. 今後の方向性

区分	見直し
今後の取り組み方針	<p>障害児や発達上支援が必要な子どもたちに対して、専門的な保育・療育の提供を行うとともに、利用者のニーズを踏まえ、療育を受けやすい環境を整えることは重要であり、介護タクシー、タクシーによる通所支援については引き続き実施していく。</p> <p>しかしながら、同支援は経費面やタクシーの台数確保等に課題があることから、療育の保障を堅持しつつ、より効果的・効率的な実施できるよう見直しの検討を行う。</p>

事務事業実績測定調書

R4調書番号 347

事務事業名称	保育所・通所施設巡回相談業務											
測定年度	2022(R4)年度			部	子ども未来部				課	ひらかた子ども発達支援センター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5		
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち										
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち										
	実行計画名											

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	不明	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	障害や発達上支援の必要がある児			
	サブターゲット	上記児の保護者			
	ターゲットが抱える課題	障害や発達上支援の必要がある児の保育内容づくりやクラス集団の中での子ども同士の育ちあいの関係づくりについて、専門的な診断や助言等が必要である。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	市内公私保育園と共に幼稚園においても通園する障害児等に対し発達検査や保護者面接を実施することで適切な発達支援を受けることができる。				
事業概要	保育所等に在籍している障害児保育制度利用児童、制度利用以外の相談があった児童の発達診断、発達相談、行動観察を行い、併せて保護者との面談、保育士への保育の助言等を行う。市内公立幼稚園等に通う障害児等への発達検査や保護者面接を実施。保護者面接では、子どもの普段の姿も聴きながら発達に関する指導・助言を行う。その後実施する市内公立幼稚園等の職員とのカンファレンスでは、子どもの発達状況と普段の保育での姿を照らし合わせながら子どもの保育にとって必要な手立てを見直す。以上について、1人の児童につき年1～2回実施する。そのほか、年1回、市内公立幼稚園の職員に対して障害児保育に関する研修を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		障害のある子どもや配慮の必要な子どものより良い発達成長を促している。				各相談に対し、適切な助言等を行う。				障害や発達上支援の必要がある児及びその保護者からの相談を受ける。			
指標設定	指標説明	巡回相談利用園数				年間延べ相談数				相談受付日数			
		単位		園		単位		回		単位		日	
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)	61	62	78	78	1,020	1,020	1,399	1,399	225	225	225
	実績	55	56	71		938	970	1,208		215	219	225	
	達成度	91%				86%				100%			

3. 人員体制

(人)

	R4実績
正職員	4.00
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.80
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	29,508	26,321	31,248		
	会計年度任用職員	3,237	4,874	4,471		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	32,745	31,195	35,719		
	物件費計	131	159	134	132	101.5%
	歳出計	33,114	31,354	35,853		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	103	103	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	103	103	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	28	56	134	132	

5. 総括的分析

総括的分析	巡回相談・保育相談については、保育所等に在籍している児童の発達診断、発達相談、行動観察を行い、保護者との面談、保育士への保育の助言等を実施した。訪問件数については、令和4年度から幼稚園を対象に加えたことにより、令和3年度の延べ970件に比べ、延べ1208件と大幅に増加した。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	保育所等に在籍している障害児等が適切な発達支援を受けることができるよう、引き続き巡回相談・保育相談を実施していく。

事務事業名称	障害児等関係機関ネットワーク事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	子ども未来部			課	ひらかた子ども発達支援センター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち									
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	1978(S53)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	児童福祉法				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	18歳未満の障害児			
	サブターゲット	庁内外の福祉・医療・教育を担当する機関			
	ターゲットが抱える課題	子ども自身や家族が抱える悩みや困難さに対して、どのような行政サービスや社会資源があるのか、情報提供を行っていないケースがある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	子ども自身や家族に関与した機関から、適切な情報提供を行ったり連携を深めることで、必要な支援を行うことで、家庭生活、社会生活の安定につなげていく。				
事業概要	障害児およびその家族が抱える様々な問題に対応し、その早期解決とともに障害児等が地域で生き活きと生活できる環境づくりの推進を目的として、福祉・保健・教育を担当する機関が連携し、ネットワークを強化している。実務者会議、代表者会議、関係機関研修、施設見学、事務局会議等を行っている。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	子ども自身や家族に関与した機関から、適切な情報提供や密なる連携、必要な支援を行うことで、家庭生活、社会生活の安定に繋がって	各会議等の結果をもとに、障害児及びその家族が抱える様々な問題に対し、必要な支援を行う。	障害児及びその家族が抱える様々な問題に対応するため、福祉・保健・教育を担当する機関が連携し、各会議等を開催する。
指標設定	指標説明	障害児及びその家族に対する新規相談件数。	障害児及びその家族の抱える様々な問題に対し、福祉・保健・教育を担当する機関が連携し、情報共有を図る会議の開催回数。
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	単位 件	単位 回
	目標 (見込み)	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	実績	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
達成度	420%	430%	86%

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.15
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

(千円)

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	3,190	786	1,172		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	3,190	786	1,172		
	物件費計	1	45	45	50	90.0%
	歳出計	3,191	831	1,217		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
		歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	1	45	45	50	

5. 総括的分析

総括的分析	<p>障害児およびその家族が抱える様々な問題に対し、福祉・保健・教育を担当する機関が連携し、情報共有を図るため、枚方市障害児等関係機関代表者会議を1回、実務者会議を5回、事務局会議を8回実施し、ネットワークの強化を図った。また、様々な問題への対応力を高めるため、令和5年1月に「子どもの願いをみんなで理解する、子どもの主体性を育む関わりとは」をテーマに関係機関研修を実施した。</p> <p>以上の取り組みを踏まえながら、それぞれの機関において障害児及びその家族の抱える様々な問題に対し相談支援等を実施した。</p>
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、障害児及びその家族の抱える様々な問題に対し、福祉・保健・教育を担当する機関が連携し、家庭生活、社会生活の安定のため、相談支援につなげていく。

事務事業実績測定調書

R4調書番号 917

事務事業名称	ひらかた子ども発達支援センター運営事務										
測定年度	2022(R4)年度			部	子ども未来部			課	ひらかた子ども発達支援センター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		9.施策体系外								
	施策目標		99.施策体系外								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務
事業期間	不明		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	ひらかた子ども発達支援センターの所属職員			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	課の運営を円滑に図る必要がある			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	課の運営が円滑に行われている				
事業概要	センターの予算・決算に関する事務、職員の給与・休暇・人事・サービスに関する事務、文書の收受・発送・管理事務等				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
指標設定	指標説明													
	指標種類													
	指標数値	目標 (見込み)												
		実績												
	達成度													

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.70
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	5,583	5,500	5,468		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	5,583	5,500	5,468		
	物件費計	9,736	10,515	12,557	13,149	95.5%
	歳出計	15,319	16,015	18,025		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
		歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	9,736	10,515	12,557	13,149	

5. 総括的分析

総括的分析	予算・決算、各種照会・回答について、センター内の連絡調整及び執行管理及び職員の出退勤、休暇申請等の管理・報告、会計年度任用職員の賃金関係の報告などの庶務事務全般を実施した。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、センターの事務事業が効率的に執行されるよう、円滑な運営を行っていく。